

里子訪問ツアー その1

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マダ-ブ ナラエン マナンダ-ル

8月5日～12日に行われた里子訪問ツアーは参加者皆様のご協力により無事終了し、ポカラで怪我された一名の方もスケジュール通りツアーを続けることが出来たのは幸いでした。

私が、その後18日まで滞在延長し過ごしたネパールの印象もツアーご報告と共にお伝えします。

8月5日、羽田空港集合から始まったツアーは遅刻者もなく順調な出発となった。参加者は9名で、五味副理事、会員の春日さん、春日さんのハイキンググループの方々6名(内1名は会員)が共に行動するメンバーであった。

羽田から関西国際空港へ、空港には岐阜の野村理事から送られた根尾小学校生徒よりの絵画、色鉛筆の段ボール1箱、ライ理事から送られたミランクラブジャパンよりの記念品のバッグと春日部支部よりの手作り菜が入った段ボール2箱が届けられていた。個人で渡航される会員の筒井さんと合流し広州経由でカトマンズのトリブバン国際空港に着いたのはその日の22時頃だった。

一人25ドルかかるビザ取得はスムーズにいき、さて荷物を取り税関を通過しようとした。バッグの入った段ボール2箱は日本を出る時から壊れかけていてテープで何重にも補修していたものがカトマンズに着き、箱の原型を留めなくなっていた。中身が見え、かろうじて両脇から2、3人で押さえ、税関で呼び止められた時は冷や汗ものだった。同じ品物であることが見えているため、商売として見なされる恐れがある。税関員の判断次第では税金を払わなくてはならない。いろいろ説明し、やっと通ることができた。

空港にはミランクラブネパールのプルソッタム幹事、サヌ副幹事、サガル会計担当、コーディネーターのラミタが出迎えてくれ、マリーゴールドの花輪を皆に

掛けて歓迎してくれた。

宿泊先のマッラホテルは外国人観光客が多く集まるタメルスの近くにあり、5つ星のホテルだ。

翌6日はツーリスト専用バスでポカラへ向かった。ナンバープレートが緑のこのバスはバンダ(ストライキ)でも自由に走行することができる。通常5時間で行ける道のりを事故渋滞により9時間以上もかかってしまった。一番困ったのはトイレで、一般家庭のを使わせてもらったりもした。川沿いに行くポカラへのルートは雨季のこの時季は緑豊かな山並みや段々畑が美しい。ポカラ到着後は夕食を食べるのみ、移動だけの一日となってしまった。

翌7日はサランコット丘からの日の出を見にホテルを4時半に出発した。薄暗い中、銀色に輝くヒマラヤ山脈が見え始め、太陽と共に山々の頂きの雪の白が見え、ピンク色へと変わっていった。丘には外国人観光客でいっぱいだった。ミルクティーを飲みながら暫くの間、朝の一時を楽しんだ。



マチャプチャレ 6993m



アンナプルナ山群

ホテルへ帰り、庭でバイキングの朝食を取り、ゆっくりと休んだ。その後、ペワ湖をボートでバラヒ寺のある島へ渡りお参りをした。ポカラの町を散歩してから筏で再びペワ湖を渡り、有名なフィッシュテールホテルへ行きランチを取った。午後はポカラ支部を訪問し、集まってくれた6名の里子たちと会った。その後、5年前にできたばかりのポカラの外れにある国際登山博物館を見学した。夜はネパール民族舞踊を見ながらのバイキング料理だった。こうしてスケジュールぎっしりの一日は終わった。



里子たちとポカラ支部前にて

翌8日、バスでルンビニへ向かう朝のポカラは曇っていた。前日にヒマラヤ山脈を見ることができたのはラッキーだった。

ルンビニは皆様をご存じの通り、釈迦の生誕地であるため、仏教徒にとって最も大事な場所である。ネパールでは今年ルンビニヤーになっており、この機会に少しルンビニを紹介したいと思う。

この仏教の聖地をインドのアショカ王が紀元前3世紀に訪れた際、釈迦の生誕地であることを石柱の碑に残された。また周辺には当時の宮殿の遺跡も多く、見学することができるので、毎日多くの国々から絶えず巡礼者や観光客が訪れる。

仏教聖地は整備されるまでは殆ど原っぱになっており、遺跡を発掘し、整備して聖地公園としたのはUNESCOの援助が大きい。現在のルンビニ公園のマスタープランを立てたのは日本の有名な建築

家、丹下健三氏である。彼のマスタープランに基づいて、今着々と建設が進められている。



チベット仏塔

タイ仏塔



日本仏塔



仏教生誕地

アショカ王記念碑

さて私たち一行はここに15時に着き、すぐに仏教聖地ルンビニ公園へ行った。広大な敷地を巡るために2人一組でリクシャーに乗った。釈迦の生誕遺跡や世界各国が建てた仏教寺院を巡った。日本、チベット、中国、韓国、タイ、ビルマ、ラオス、カンボジア、ドイツ、フランス等々からのものがあった。気温38の中、3時間かけて周った。移動時間も長かった上、暑さの中での観光、皆さん本当によく頑張ってくれました。

翌9日はカトマンズに戻り、ミランクラブ日ネ合同理事会出席のためパタンヘツアー参加者全員で訪れた。ちょうどその日はクリシュナ生誕祭で見物すること

ができた。パタンにはクリシュナマンディールがあり祭りは盛大に行われる。私と五味副理事が理事会出席のため、その他の方々は特別里親のダルマ氏の案内で観光した。

理事会の参加者は、カトマンズに残り日本からの品物を仕分けしたり、一人でカトマンズ散策して、すっかり現地に馴染んだ五味副理事、ツアーより何日か前にネパールに到着し里子たちと会ったり学校訪問したりの篠原副理事ご夫妻、理事会に間に合うように日本から到着された小笠原理事、日本から往復のみ一緒に元理事の筒井さん、そして私とネパール側からは6名の役員だった。

その後の懇親会は連日の強行スケジュールのツアー参加者とネパール側からは遅れてきたスタッフたちが加わり、賑やかに行われた。会場はパタンにあるイトディグリーレストランだった。乾杯後、それぞれ自己紹介してもらい親睦を深めた。ツアー参加の一般の方々にもミランクラブのことを知ってもらえた事は良かったと思う。

翌10日、午前中はダルマスタリ学校訪問、午後はミランクラブネパール20周年記念式典参加、その後の懇親会参加と行動を共にし、一般のツアーでは体験できない一日となったに違いない。



ダルマスタリ学校の生徒たち

翌11日はそれぞれが世界文化遺産になっている場所を訪れた。ボードナート仏教寺院、パシュパティヒンドゥ教寺院、バクタプール古都、そしてカンマンズ散策で買物をしながらホテルに戻った。ボードナートでは物価上昇に反対するバンド(ストライキ)に遭い、寺院の約1km

手前でバスを降り歩いた。パシュパティではバグマティ河畔で火葬される光景を対岸の丘から暫く見ていた。バクタプールはネパールを代表するような古都で、故ビレンドラ国王の戴冠式に間に合うようドイツの援助で街全体が修復され、文化遺産として保たれた。物売りの子供たちは街には入れず、街の入り口で声をかけてきて、何人かが値切って買った。カトマンズに戻りネパール通の春日さんに皆さんを任せ、私は兄の家へ寄った。

ネパール滞在中は同じバスで運転手も長時間の運転でハードスケジュールだったに違いない。

最後の夕食は中華料理レストランで慌ただしく済ませ(時間内に食べきれずテイクアウト)またホテルに戻り、空港までMCNのメンバーに送られ、名残惜しくネパールを後にした。

ハードスケジュールにも関わらず、疲れたという言葉も聞くこともなく好奇心旺盛な団体行動のできる素晴らしいメンバーとの1週間は心に残るものだった。



ボードナート寺院



バクタプール古都

皆さん、本当にお疲れ様でした。

続く...